

第Ⅰ章 竹田市の概要

第Ⅰ節 自然的・地理的環境

(1) 位置

本市は九州のほぼ中央、大分県では南西部に位置し、北のくじゅう連山、西の阿蘇外輪山、南の祖母山と1,000 mを越える山々に囲まれている。また、市の東側は豊後大野市及び大分市、西側は熊本県、南側は宮崎県、北側は九重町及び由布市に接しており、中心市街地から県都大分市まで約50 km、西方の熊本市まで約70 kmの位置にある。



図8：竹田市広域位置図

(2) 地勢

本市の市域の総面積は約477.53km²で、東西約24 km、南北約36 kmに及ぶ。その70.9%を山林と原野が占め、緑豊かな自然環境に恵まれている。標高250mの盆地から標高900m程度の高原地域を経て、標高1,700m級の山々が連なる山岳地帯まで、本市の地形は非常に起伏に富んでいる。西部には阿蘇火砕流によって形成された阿蘇外輪山から続く広大な台地があり、北部のくじゅう連山南麓地域には久住高原が広がり、南部に広がる祖母山麓地域は奥山を形成している。そして、周囲の山々から派生してくる台地を数多くの河川が深く浸食することで、起伏に富んだ地形が生まれている。そのため、標高400～600m以上の丘陵地も多く、低地の河川沿いにおける平地の広がりはずかである。

市域を流れる河川には2つの水系(大野川水系と大分川水系)がある。大野川水系は、祖母山系を源とする大野川や緒方川、くじゅう連山を源とする稲葉川をはじめ、その支流が市域の大部分を西から東に走り、大分県を代表する一級河川である大野川の源流地帯を形成している。一方、くじゅう連山を源とする大分川水系の芹川も、多数の支流を集めながら市域の北東部を流れている。

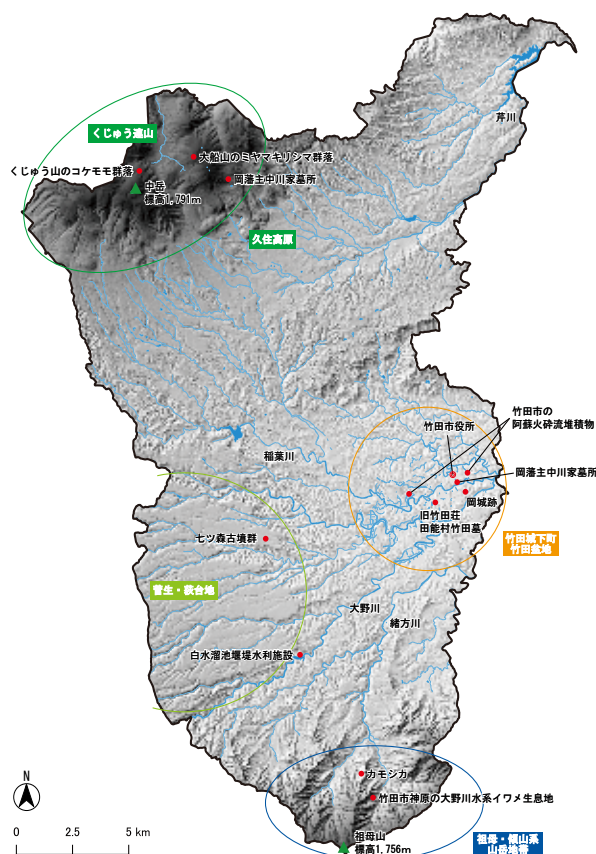


図9：地形起伏図

(3) 気候

本市の気候は気候区分によると内陸山地型に属するが、気温や降水量は地形によって差がある。盆地地域(竹田)の平成29年(2017)から令和3年(2021)までの平均年間降水量は1,877mmに対し、高原地域(南小国)では2,250mm、南部の山間地域(倉木)では部分的な観測ではあるものの平成17年(2005)から平成21年(2009)までの平均年間降水量は1,606mm程度に達する。8月から11月までは倉木が最も降水量が多く12月から7月までは3月を除き南小国が最も降水量が多い。周辺の高原、山間地域での降水量が多いため、台風や集中豪雨によって高原、山間地域で多量に降った雨水が、下流の盆地へ集中して押し寄せてくるため、度々水害となっている。

気温も標高による影響を受け、盆地地域の平成29年(2017)から令和3年(2021)までの8月の平均気温は26.2℃であるが、高原地域では25.1℃、年間平均気温は15.0℃と冷涼である。一方、盆地地域の1月の平均気温は4.4℃であるが、高原地域では2.5℃で、夏季と冬季の気温差が大きい。また、高原・山岳地域では、夏季は比較的冷涼であるが、冬季の冷え込みは厳しく、積雪も多くなる。この他、月平均や年平均の気温は高度の増加により低下するが、夜間の気温が、盆地で低く丘陵や尾根で高くなる気温逆転を示すことが多い。

観測点は、北部山岳地域は熊本県の南小国、南部の山間地域は倉木、盆地地域は竹田の観測点としている。ただし、倉木地域気象観測所は平成21年(2009)11月20日までの降水量のみの観測で、1月から3月は統計の残る最新の数値である昭和54年(1979)から昭和60年(1985)の平均から算出している。



図10：気象観測所位置図

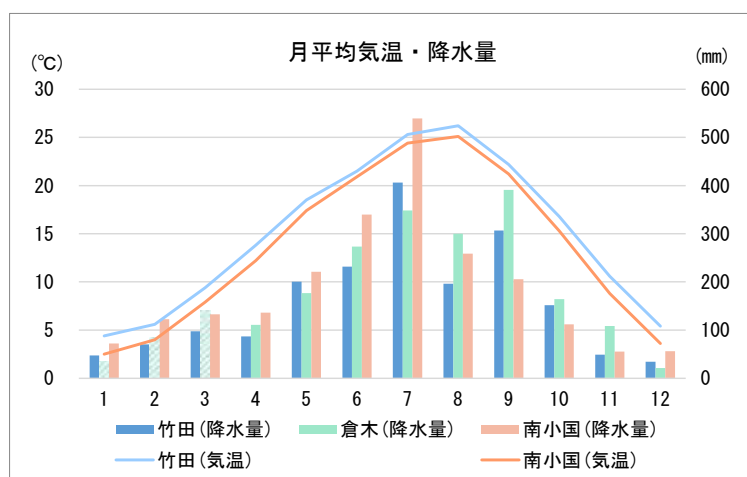


図11：平成29年(2017)から令和3年(2021)の月平均気温・降水量
気象庁HPをもとに作成

(4) 自然災害

前述のように、山岳（山間）地域や高原地域で降水量が多く、数多くの河川が複雑に蛇行して流れ、中心市街地のある竹田盆地周辺に集まるため、度々豪雨による水害が発生してきた。岡城跡（国指定史跡）の石垣崩落等、文化財も度々被害を受けてきた。近年では、昭和57年(1982)及び平成2年(1990)の集中豪雨で、河川の氾濫や土砂崩れ等により甚大な被害が出た他、平成24年(2012)の北部九州豪雨で玉来川が氾濫して流域の田畑や住宅が水没、竹田市文化会館（現在の竹田市総合文化ホール）も大きな被害を受けた。

また、平成28年(2016)4月の熊本地震(本市では最大震度5強を記録)では、岡城跡の石垣が緩み、岡藩主中川家墓所・おたまや公園（国指定史跡）の石塔が倒壊するなど、文化財にも被害が出た。令和4年(2022)1月の日向灘地震(本市では最大震度5弱を記録)でも岡城跡の石垣の一部（三の丸跡）が崩落した。



岡城跡下原門の石垣孕み・ずれ状況（熊本地震）



岡城跡三の丸、亀裂状況（熊本地震）



岡城跡石垣崩落状況（日向灘地震）



古澤家石幢被災状況（日向灘地震）

第2節 社会的環境

(1) 竹田市の沿革

明治4年(1871)7月の廃藩置県により岡藩は岡県となったが、11月に他の県と統合されて大分県となった。また、大区・小区制で旧岡県は第6大区に編成された(片ヶ瀬村のみ第5大区)。明治11年(1878)に大区・小区制が廃止されると、「直入郡」が設置された。さらに、明治21年(1888)に行政区画の再編成が進み、直入郡内は66町村から20町村となった。

そして、平成の大合併に至るまでの沿革について、現竹田市へ合併した1市3町(旧竹田市・旧荻町・旧久住町・旧直入町)に分けて整理すると、以下ようになる。

旧荻町の沿革であるが、明治22年(1889)の町村制施行により恵良原村など7村が合併し荻村となり、柏原村はそのまま柏原村となった。そして、昭和30年(1955)4月に荻村と柏原村が合併し荻町が発足した。

旧久住町の沿革は、明治22年(1889)の町村制施行により5村から白丹村・久住村・都野村の3村となった。大正9年(1920)1月に久住村が町制へ移行して久住町となり、昭和29年(1954)3月に久住町が白丹村を編入合併した後、翌年3月に久住町と都野村が合併し久住都町が発足したが、昭和32年(1957)1月に町名が久住町に変更された。

旧直入町の沿革は、明治22年(1889)の町村制施行により上田北村と下田北村が合併し下竹田村となり、長湯村はそのまま長湯村となった。昭和23年(1948)4月に長湯村が町制へ移行して長湯町となり、昭和30年(1955)3月に長湯町と下竹田村が合併して直入町が発足した。

旧竹田市の沿革は、明治22年(1889)の町村制施行により48町村から竹田町・豊岡村・岡本村・玉来村・松本村・入田村・姫岳村・宮砥村・菅生村・宮城村・城原村・明治村の1町11村となり、明治39年(1906)6月に玉来村が町制へ移行し玉来町となった。その後、昭和17年(1942)4月に明治村・岡本村・豊岡村が竹田町に編入されるが、昭和25年(1950)9月に豊岡村が竹田町から分離した。そして、昭和29年(1954)3月に2町8村が合併し市制へと移行、竹田市が発足した。翌年7月には緒方町より旧片ヶ瀬村が竹田市に編入された。

平成17年(2005)4月にこれらの1市3町が合併し、現在の竹田市が誕生した。

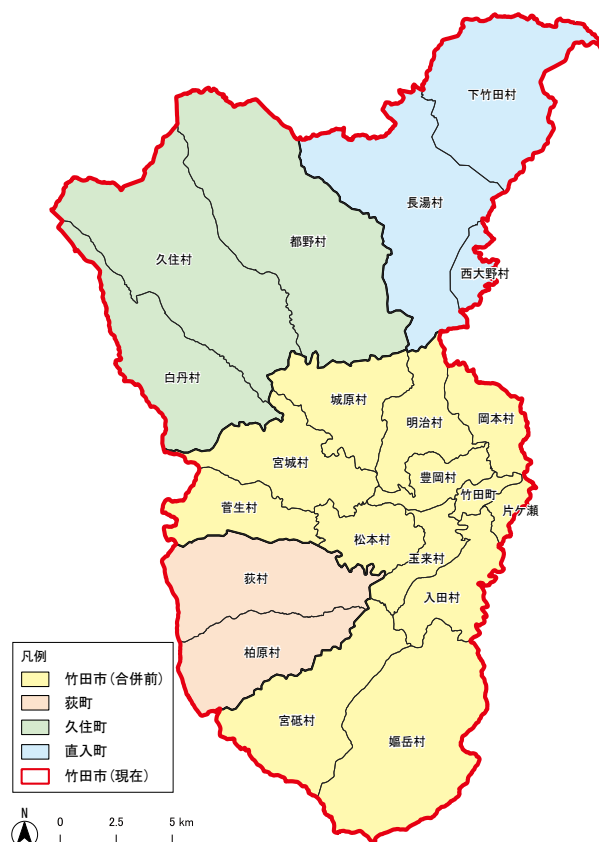


図12：竹田市旧行政区範囲図

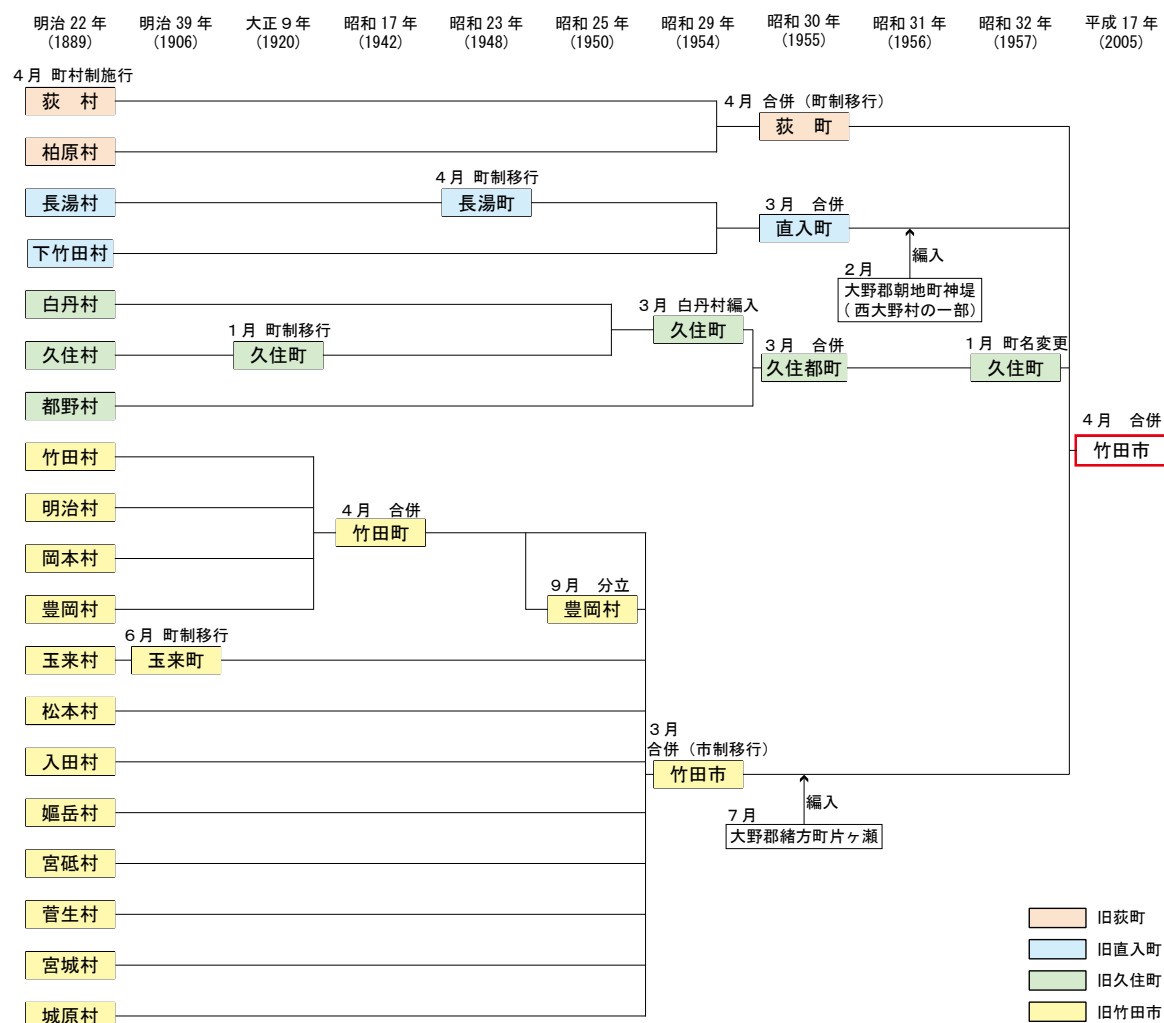


図 13：竹田市の沿革

(2) 人口

本市の人口は、令和 2 年（2020）国勢調査結果（総務省統計局）で 20,357 人であった。前回の平成 27 年（2015）国勢調査結果（総務省統計局）では 22,332 人と、5 年間で 1,975 人が減少している（-8.84%）。平成 2 年（1990）時点の人口が 32,398 人であったので、30 年間で 12,041 人が減少し、約 37.1% の人口が減少したことになる。年齢層別の人口をみると、64 歳未満の人口は減少する一方で 64 歳以上の人口が増加していて、過疎化と少子高齢化が顕著となっている。

国立社会保障・人口問題研究所の推計では、令和 7 年（2025）に本市の人口は 2 万人を割り込み、さらに 20 年後の令和 27 年（2045）に 11,520 人となる見込みである。また、老年人口は今後さらに増加し、令和 7 年（2025）以降は半数を越え、さらに 20 年後の令和 27 年（2045）には 80 歳以上が約 2 割を占める見込みである。

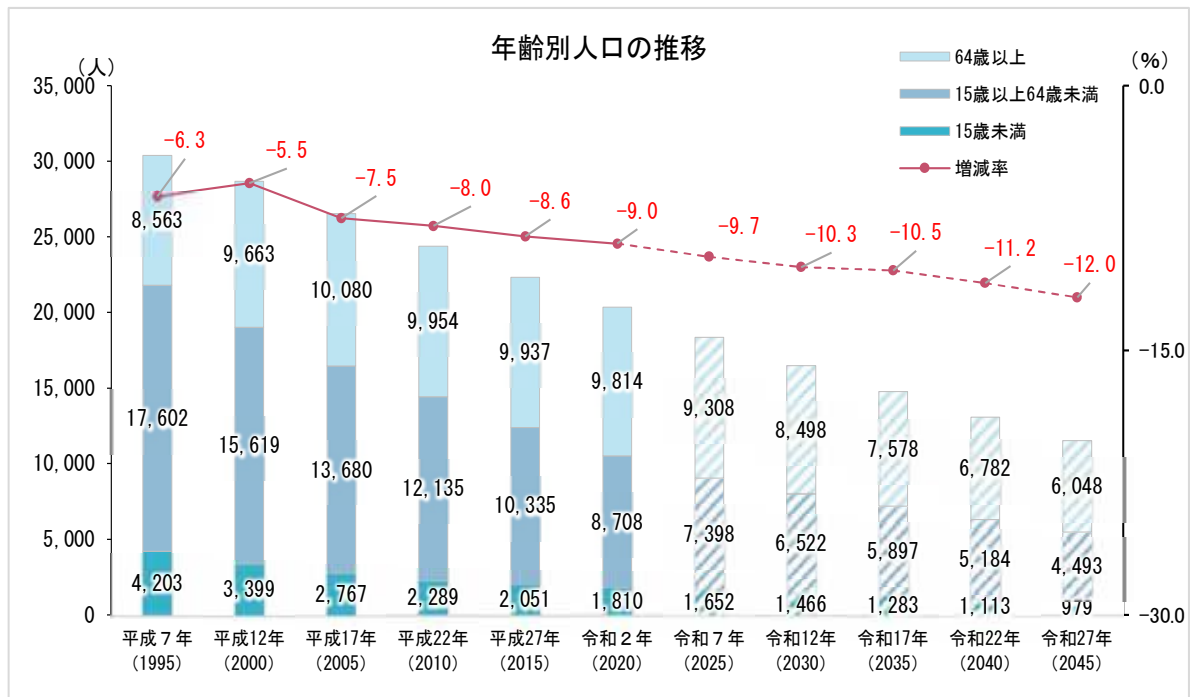


図 14：竹田市の年齢別の人口推移

(3) 土地利用

本市の市域の多くは農業地域、森林地域、自然公園地域等に指定されている。周囲をくじゅう連山や祖母・傾山系等の山々に囲まれているため、自然公園地域が多く分布する(後述)。本市の中心市街地である竹田地区や玉来地区は都市計画区域であり、用途地域の指定等により土地利用の規制誘導が行われている。

市域のほとんどを森林地域が占めるが、高原や台地上の平地、山の斜面や谷間の傾斜地、河川沿いの平地を利用した農業地域が広がる。基盤整備等の農地整備が行われている地域においては、大規模な農業地帯が形成され、特に台地上の荻地域や菅生地区は農業を主要産業として発展してきた地域であり、高原野菜の栽培が盛んである。

(4) 自然公園地域

本市は、くじゅう連山や祖母・傾山系など、標高1,000 mを越える山々に囲まれた自然豊かな地域であり、市域の周辺部は「阿蘇くじゅう国立公園」等の公立の自然公園地域が広がる。昭和9年(1934)に指定された「阿蘇くじゅう国立公園」は、

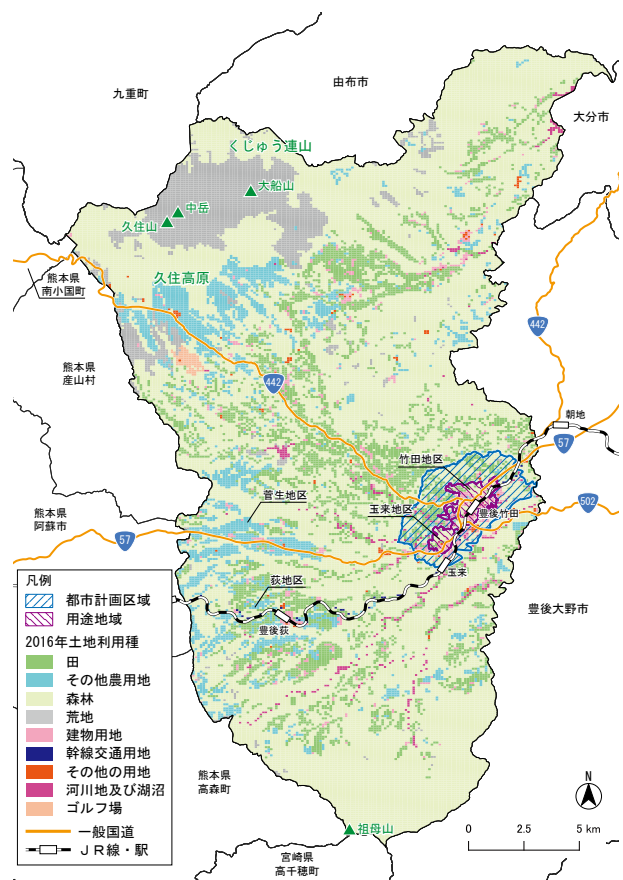


図 15：土地利用状況図

大分県と熊本県にまたがる面積 72,678ha の国立公園で、本市では山麓の久住高原を含むじゅう連山一帯が含まれている。九州のほぼ中央部に位置する活発な火山地帯であるが、裾野に広がる高原では野焼き等によって草原の景観が維持され、九州でも有数の観光地となっている。昭和 26 年（1951）に指定された「神角寺芹川県立自然公園」は、大分県中部の神角寺（豊後大野市朝地町鳥田）及び芹川を中心とする地域に広がる。豊後大野市の神角寺山・鎧ヶ岳・烏帽子岳などの山岳地域と、直入地区の芹川流域からなる面積 10,065ha の自然公園である。芹川流域には、長湯温泉・芹川ダム・小津留湧水等の水資源が豊富にある。

一方、大分県と宮崎県にまたがる祖母・傾・大崩山系は、急峻な岩峰や数々の渓谷など独特の景観美と原生的な自然を併せ持ち、希少動植物の宝庫としても知られている。自然と人が共生しながら地域が発展していくために、祖母・傾・大崩山系周辺地域の自治体（大分県、佐伯市、竹田市、豊後大野市、宮崎県、延岡市、高千穂町、日之影町）が連携し、「祖母・傾・大崩ユネスコエコパーク」の登録を目指す取組を進め、平成 29 年（2017）6 月に登録地として決定された。また、昭和 40 年（1965）に指定された「祖母傾国定公園」は、大分県と宮崎県にまたがる山岳地帯で、22,000ha の面積を有す。その範囲のほとんどを原生林が占め、カモシカ（国指定特別天然記念物）が生息し、竹田市神原の大野川水系イワメの生息地（国指定天然記念物）もある。国定公園の隣接地には、昭和 26 年（1951）に指定された「祖母傾県立自然公園」もあり、その面積は 14,123ha である。



図 16：自然公園範囲図

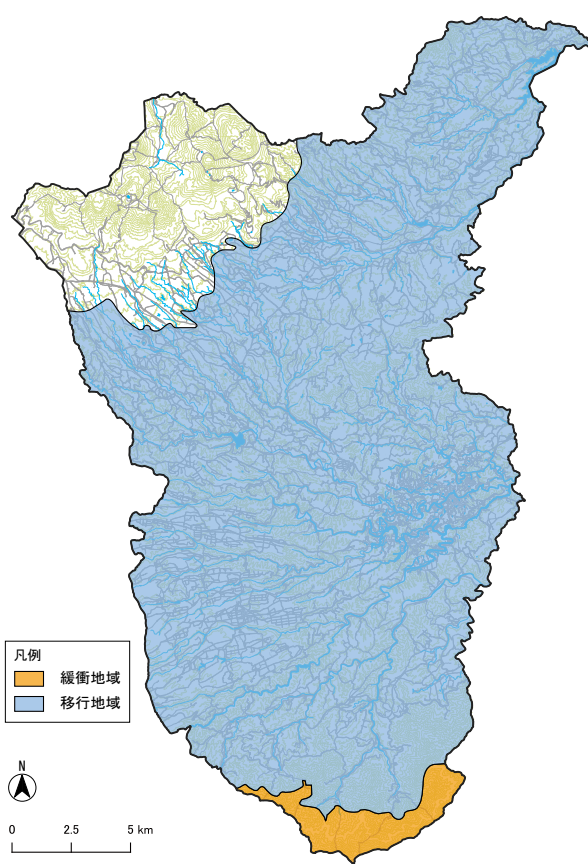


図 17：祖母・傾・大崩ユネスコエコパーク範囲図

(5) 産業と観光

本市の基幹産業は農業である。平成 28 年（2016）に策定された『第 2 次竹田市農林業振興計画』によると、平成 18 年（2006）時の農業産出額は 181 億 4 千万円であり、部門別では畜産 48%、園芸 33%、米 8% の順で産出額が多く、個別農産物では野菜、肉用牛、米の順となっている。高齢化や後継者不足など農業を取り巻く環境が大変厳しい状況にあるにも関わらず、平成 14 年（2002）以降は農業算出額において大分県内第 1 位を確保している。米の他、トマト・ピーマン・イチゴ等の施設野菜やレタス・キャベツ・スイートコーン等の露地野菜、アルストロメリア等の花き、椎茸、カボス、サフランの栽培が盛んである。また、豊後牛をはじめ畜産農家の評価も高い。

商業については、中心市街地である竹田地区と玉来地区、そして荻地区・久住地区・長湯地区の商店街に商業地が形成されている。特に玉来地区を中心とする国道 57 号沿いに大型店が出店している。かつては奥豊後の中心地として、

隣接する豊後大野市や熊本県阿蘇市等の一部も商圏としていたが、商圏人口の減少や道路交通網の発達、消費者ニーズの多様化等により、市民の購買力のほとんどは大分市等の都市部へ流出している。近年は、岡城跡や旧城下町、久住高原、長湯温泉を中心に観光客数が増加に転じ、新規出店も増加傾向にあるため、さらなる観光産業の充実が必要である。

平成 22 年国勢調査結果（総務省統計局）では、15 歳以上の就業者 12,420 人のうち、サービス業従事者は 4,110 人（33.1%）で、これまで 1 位であった農業従事者 4,058 人（32.7%）を上回った。次いで卸売業・小売業従事者 1,383 人（11.1%）、建設業従事者 894 人（7.2%）と続き、上位 4 業種で 84% に達している。平成 27 年国勢調査結果（総務省統計局）でも、15 歳以上の就業者 11,424 人のうち、サービス業従事者は 4,112 人（36.0%）で、農業従事者 3,489 人（30.5%）を大きく上回っている。卸売業・小売業 1,241 人（10.9%）及び建設業 835 人（7.3%）はほぼ横ばいで推移している。また、上位 4 業種の合計は 84.7% と高水準を維持している。このように農業における高齢化や後継者不足が急速に進み、担い手の確保が喫緊の課題となっている。

観光面では、本市には、九州を代表する山々が連なり緑豊かな大自然が広がり、それらの山々を源とする豊富な水資源がある。また、岡藩時代に培われた豊かな歴史文化も保持している。これらは重要な観光資源として来訪者を楽しませている。市内中心部では、史跡岡城跡及び往時の趣を残す武家屋敷通りをはじめとする旧城下町が残されている。この旧城下町周辺では、「たけた竹灯籠・竹楽」が開催されており、市内外から多くの観光客が訪れる本市の代表的なイベントとして愛されている。一方、北部の



図 18：交通網図

「阿蘇くじゅう国立公園」やその麓に広がる久住高原を中心とした久住連山や大船山、南部の祖母山への登山客等も多く、久住高原では、DRUM TAOによる和太鼓パフォーマンスも人気である。この他、世界有数の炭酸泉と称される長湯温泉をはじめ、市内各地から多様な温泉が湧出しており、多くの観光客に癒しを与えている。



たけた竹灯籠・竹楽

しかし、観光客の中心は日帰り客であり、市内宿泊客数は観光客全体の約9%と圧倒的に少ない。そのため長期滞在を可能にする観光プログラム等の検討が重要な課題にもなっている。平成18年(2006)を境に減少傾向にあった本市への観光客数は、平成25年(2013)から緩やかな回復傾向がみられたが、平成28年(2016)の熊本地震の影響、そして、令和2年(2020)からの新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響により、大きな落ちこみを見せている。

竹田市観光客数(推計値)の推移

単位(人)

	平成20年 (2008)	平成21年 (2009)	平成22年 (2010)	平成23年 (2011)	平成24年 (2012)	平成25年 (2013)	平成26年 (2014)	平成27年 (2015)	平成28年 (2016)	平成29年 (2017)	平成30年 (2018)	令和元年 (2019)	令和2年 (2020)	令和3年 (2021)
竹田	1,077,763	1,071,959	1,146,996	1,089,646	1,209,507	1,243,248	1,300,086	1,377,610	1,201,720	1,220,943	1,246,303	1,284,348	1,091,040	773,103
荻	162,402	156,921	162,789	138,371	113,464	117,729	110,642	100,718	95,571	89,628	89,999	89,526	58,023	48,008
久住	1,813,643	1,665,979	1,334,948	1,241,502	1,129,767	1,197,579	1,082,842	1,066,115	660,322	812,170	826,393	848,704	520,931	601,971
直入	698,117	689,614	795,676	724,065	687,862	745,936	731,433	776,230	744,000	692,146	672,801	701,101	552,990	531,061
合計	3,751,925	3,584,473	3,440,409	3,193,584	3,140,600	3,304,492	3,225,003	3,320,673	2,701,613	2,814,887	2,835,496	2,923,679	2,222,984	1,954,143

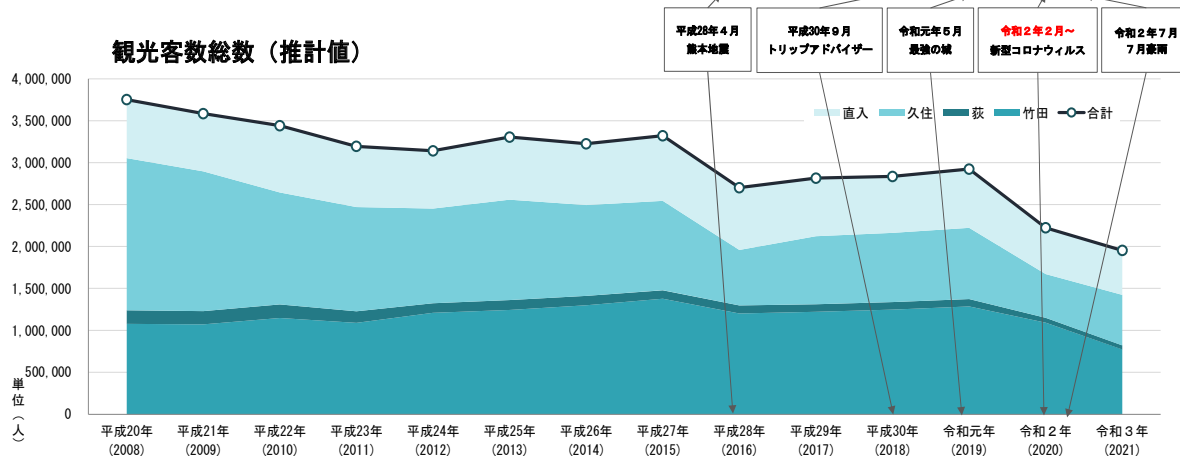


図19：観光客入込数の推移図

日帰り客数(推計値)の推移

単位(人)

	平成20年 (2008)	平成21年 (2009)	平成22年 (2010)	平成23年 (2011)	平成24年 (2012)	平成25年 (2013)	平成26年 (2014)	平成27年 (2015)	平成28年 (2016)	平成29年 (2017)	平成30年 (2018)	令和元年 (2019)	令和2年 (2020)	令和3年 (2021)
竹田	1,058,040	1,053,281	1,128,218	1,070,118	1,188,612	1,221,935	1,276,728	1,356,627	1,181,854	1,202,530	1,226,341	1,266,389	1,077,180	759,910
萩	153,134	148,144	154,320	129,394	105,474	110,298	103,619	93,695	88,548	82,605	82,657	83,620	56,369	47,165
久住	1,648,431	1,509,519	1,192,992	1,098,126	990,693	1,048,770	933,618	921,224	537,560	675,487	684,240	720,965	454,241	543,034
直入	575,936	573,905	672,516	607,063	583,730	623,060	644,112	695,909	675,257	636,897	606,970	629,564	509,843	483,659
合計	3,435,541	3,284,849	3,148,046	2,904,701	2,868,509	3,004,063	2,958,077	3,067,455	2,483,219	2,597,519	2,600,208	2,700,538	2,097,633	1,833,768

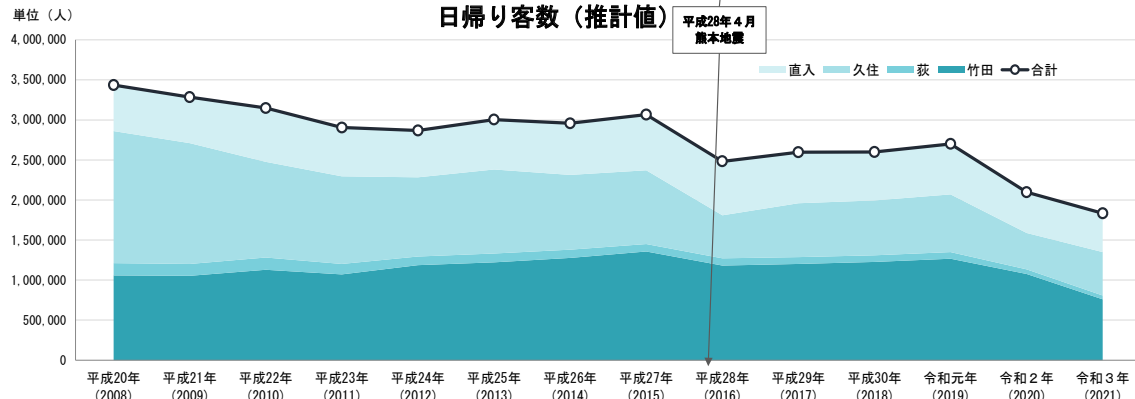


図20: 日帰り客数の推移図

宿泊客数(推計値)の推移

単位(人)

	平成20年 (2008)	平成21年 (2009)	平成22年 (2010)	平成23年 (2011)	平成24年 (2012)	平成25年 (2013)	平成26年 (2014)	平成27年 (2015)	平成28年 (2016)	平成29年 (2017)	平成30年 (2018)	令和元年 (2019)	令和2年 (2020)	令和3年 (2021)
竹田	19,723	18,678	18,778	19,528	20,895	21,313	23,358	20,983	19,866	18,413	19,962	17,959	13,860	13,193
萩	9,268	8,777	8,469	8,977	7,990	7,431	7,023	7,023	7,023	7,023	7,342	5,906	1,654	843
久住	165,212	156,460	141,956	143,376	139,074	148,809	149,224	144,891	122,762	136,683	142,153	127,739	66,690	58,937
直入	122,181	115,709	123,160	117,002	104,132	122,876	87,321	80,321	68,743	55,249	65,831	71,537	43,147	47,402
合計	316,384	299,624	292,363	288,883	272,091	300,429	266,926	253,218	218,394	217,368	235,288	223,141	125,351	120,375

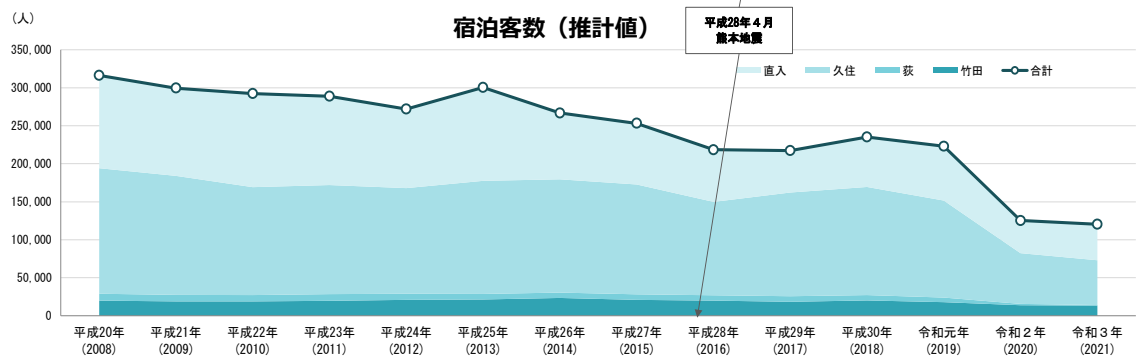


図21: 宿泊客数の推移図